Special Feature

笑顔で描く桑折の未来図

9月26日と10月3日、2回にわたって開催された「こおり未来会議」。次年度の総合計画策定に向け、20代から40代を中心とした町民22人が集まり、10年後も住み続けたい「桑折の未来図」について真剣に話し合いました。若者世代が思い描く桑折町の姿とは―、会議の様子を一部紹介します。

町の将来像や方向性を定め、全ての計画の最上位に位置する総合計画。これから10年先を見据えたまちづくりの指針となる総合計画が、令和3年9月策定に向けて、今まさに進められています。

町では、多くの人に総合計画づくりに関わってもらえるよう、これまでアンケート調査やワールドカフェ方式での意見交換会などを行ってきました。

今回は、町の次世代を担う若者層のニーズを把握するため、「こおり未来会議」を開催。町民22人と高橋町長、町総合計画審議会の会長を務める奥原英彦さんにも東京からリモートで参加いただき、より良い「桑折の未来図」について、座談会形式で意見を交わしました。

次世代の思う「町の姿」

会議では、「10年後も住み続けたい、住みたい町」をテーマに、多くの意見が出されました。9月26日の参加者（下記参照）の話し合いの様子を一部紹介します。

加藤　最近レガーレこおりや上町チアーズなど、町内に若者が集まれる施設が増えてきましたね。

氏家　確かに新しい風が吹いてきましたよね。ただ県外の友達を呼んで、町で遊ぶとなると、ちょっと物足りなくて…。

加藤　そうそう、ランチ以外にも、半日以上時間を過ごせるような場所があると良いですね。例えば、駅周辺に観光客向けの交流・物販施設やカフェをつくるとか。観光客だけでなく、町民にとってもコミュニケーションの場になると思います。

赤坂　いわゆる「憩いの場」がほしいですよね。子どもから高齢者まで気兼ねなくふらっと立ち寄れて、交流できるような施設。カフェや屋内遊び場、物産コーナー、図書館など、色んな機能をもつ複合施設があるとうれしいです。

和泉　相馬福島道路・伊達桑折IC周辺の整備も進んでいますし、あの辺りの土地開発に期待したいですね。相乗効果で、町の商工の力にもつながると思います。

赤坂　交通の便も良くなりますし、10年後、「遊びに来て」と何か自慢できるものがある町にしていきたいですね。県外出身者から見ても、桑折町の自然・果物・歴史は、県外に発信し、自慢できる強みだと思います。

氏家　「行ってみたい」という視点、大事ですよね。学生時代に東京へ出て、都会の人は地方で何かを体験することに魅力を感じているんだなと知りました。都会にない良さを生かして、農地付きの空き家を活用したBBQや農作業体験などがあれば、移住のきっかけにもなりそうです。

和泉　わたしも10年間町を離れていましたが、この町が好きで戻ってきました。魅力的な施設や体験を通して、いかに次世代に町を好きになってもらえるかが、人口増加のキーポイントですね。30代、40代の使命だなと感じます。

まちづくりは「自分事」

少子高齢化を伴う人口減少社会の中では、行政や住民、コミュニティ組織、NPO、民間事業者、専門機関などが連携し、あらゆる問題解決に立ち向かっていかなければなりません。

そのためにも、今回の会議のような場で、自分たちの住む町の現状や課題、資源や強みなどを知り、一人一人が「自分もまちづくりに参画している」と実感してもらうことが大切です。皆さんはどんな「桑折の未来図」を描きますか。一緒に考えていきましょう。

1、2_ 若者の熱い本音トークが繰り広げられました　3_ 奥原さんもリモートで参加　4_ 町を思う気持ちは同じ。輪になって未来を考えます　5_ 外から見た町の魅力を語る移住者も

こおり未来会議参加者に聞きました

若者世代が考える「住み続けたい、住みたい町」とは

加藤 沙耶子（さやこ）さん
大学2年生。自宅から県内の学校に通い、法律・行政・まちづくりなどについて勉強中。

和泉 真司（まさし）さん
生まれも育ちも桑折町。町商工会に所属。小学生と幼稚園児、1歳の子どももをもつ4児の父。

氏家 颯俊（そうしゅん）さん
町出身で、高校卒業後、関東の大学へ進学。宮城県の楽天野球団に就職し、社会人4年目。

赤坂 理恵さん
和歌山県出身。3年前、結婚・出産を機に夫の地元である桑折町へ移住。福祉団体に勤める。

まちづくりのヒントは町民の声の中に

町総合計画審議会会長
奥原 英彦さん

㈱日本総合研究所に勤務し、国や全国地方自治体の計画策定に参画しています。また、現在は、ふくしま自治研修センターの総合支援アドバイザーとしても、県内市町村のさまざまな計画策定に携わっています。

今回の「こおり未来会議」では、若い世代の中でも、町にずっと住み続けてきた人や町に戻ってきた人、移住してきた人など、さまざまな立場の人から貴重な意見を聞くことができました。皆さんの意見を聞いて「自分たちが自慢したい、ワクワクできる町にしたい」という思いを強く感じました。

計画づくりは行政だけではできません。町民の声の中から、ヒントを拾い上げていくことが大切です。これまでのアンケート調査や会議で出された意見を踏まえて、より多くの町の皆さんの思いが込められた町総合計画をつくりたいです。